



失敗から学び 大きく成長する

校長 三浦 利信

5月は大きな学年行事が続きました。8組の立川・八王子への校外学習、3年生の京都・奈良方面修学旅行、2年生の都内校外学習、どの行事も大きな成果が見られました。成功体験をとおして、人は大きく成長することができます。一方で、うまく出来なかったこと、課題もありました。このような失敗をとおしても、自分自身を成長させることができます。



パナソニックを一代で築き上げた「経営の神様」こと、松下幸之助さんの言葉です。こう考えれば、「失敗」は自己を成長させるためには必要な考え方のひとつだと思います。

失敗したところでやめてしまうから失敗になる。
成功するところまで続ければ、それは成功になる。

松下幸之助さんは、「失敗」とは、取り組み始めた物事を中途半端にやめてしまう（諦めてしまう）から、結果として「失敗」したことになる。苦しく、辛く、時間ばかりがかかってしまいかもしれないが、自分が目指す目標、目的まで諦めず、取り組み続ければ「失敗」ではなく「成功」となると話しています。つまり、何度「失敗」しても、「失敗」はすべて成功への過程の「よい経験」になるということです。

この言葉は、シンプルであり、かつ当たり前のことですが、「失敗」は「よい経験」として、その考えを貫き通した生き方をすることが大切です。とは言っても、誰でも「失敗すること」への怖さを持っています。特に、周囲の人たちから失敗を指摘されることは、とても辛い経験となります。しかし、「失敗」を恐れている者には、進歩も成長も、そして成功ありません。羽村一中生には、「失敗」を恐れず、またその「失敗」を糧として、常に前向きな考え方をして欲しいと思います。

「自分を大切にすること」

羽村一中は、「誰にも優しい学校」を目指しています。人に優しく接するためには、自分自身を大切にすることが必要です。自分を大切にすることは、ありのままの自分を受け入れ大切にできることです。

ありのままの自分を大切にすることができれば、自信を失った時、あるいは周囲に一方的に否定された時など、「こんな自分はダメだ」と自分を否定せずに「失敗やうまくいかないこともある。次に頑張ろう」ととらえ、立ち直ることができます。自分を大切にできる人は、「自分が周りの人に比べて劣っている」と考えることはありません。周りの人との違いを受け入れ、相手を素直に認めて、自分だけでなく他の人にも優しく接することができます。

一中あるばむ

学習や行事、部活動等に一生懸命に取り組む一中生の素敵な様子を紹介します。

セーフティ教室(全学年) 5月29日(水)

個人情報拡散してしまうとどんなことになるのか。引越しを余儀なくされ、裁判にまで至ってしまった学生の「こんなことになるなんて」「今までの生活を全部失ってしまった」という言葉に、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。身近なものであるインターネットは楽しく便利なものではありますが、“世界中につながっている”という意識をもって使うことが大切だと改めて気づかされました。



進路説明会(3学年) 5月31日(金)

3年生は進路に向けての準備が着々と進んでいます。説明会当日は、生徒だけでなく、希望された保護者の方も一緒に、都立東大和高校と東海大学菅生高校の先生からお話を伺いました。学校紹介だけでなく、都立と私立の違いや入試のことなど、限られた時間の中で、たくさんの情報を得ることができました。今月末には、11校の上級学校の先生をお迎えして、ブース形式の説明会も予定されています。この貴重な機会を利用して、より良い進路選択できることを願っています。



避難訓練(全学年) 6月3日(月)

朝6時31分、鳴り響く地震警報に驚いた人も多いのではないのでしょうか。ちょうどこの日、地震を想定した避難訓練が行われました。各学年とも、無言で整然と集まることができました。一般的な平均避難時間は約5分と言われていますが、この日の一中生の避難時間はなんと3分20秒でした。一中生の素早い集団行動に驚かされました。



避難訓練で使った雑巾を丁寧に洗う整美委員の生徒たち。ありがとうございます！

「花いっぱい運動」で1年生と8組が植えてくれた色とりどりの花のおかげで、校庭が華やかになりました。

